



中山寺3丁目付近で出土した石櫃いしびつや火  
葬蔵骨器をはじめ、貴重な考古資料が出  
土しているドウ。



れき し じ だい  
**歴史時代**

飛鳥時代～室町時代 (600年～1800年)

## 時代の概要

飛鳥時代以降になると、日本でも本格的に文字が使われるようになり『古事記』や『日本書紀』などの歴史書が編集されました。文字が使われ始めた時期を考古学では「歴史時代」といいます。

この時代は、仏教が本格的に伝来し、各地で寺院が建立されました。奈良時代以降は貨幣も流通し始めます。また技術も進展し各地で様々な焼き物(土器)が作られるようになりました。

宝塚市域では、飛鳥時代～奈良時代の須恵器ちよくし がわ かまあとを焼いた窯跡の勅使川窯跡や、清荒神清澄寺の旧寺地であるといわれる旧清遺跡、奈良時代～中世の集落跡の山本遺跡が発掘調査で見つかっています。

### 市内の主な遺跡

もときよし い せき      どう さか い せき  
**旧清遺跡 ・ 堂坂遺跡**

#### 旧清遺跡 (平安時代後期～江戸時代初期)

売布きよしガ丘にある清澄寺の旧寺地であるといわれる遺跡です。昭和45年(1970年)に発掘調査が行われ、金堂跡・建物跡・瓦窯跡が見つかりました。天台系の伽藍がらん配置とされ、創建時期は、出土した瓦から平安時代後期であると推定されています。

瓦や土器、仏具、硯や石鍋などの遺物が出土しています。

(※現在は金堂跡が公園内の地下に保存されています。)



金堂跡

旧清遺跡伽藍配置図



発掘調査時の金堂跡